

# ギアリンクス便り 第7号 2004年2月発行

〒505-0051 岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣 343

ホームページ [www.gialinks.jp](http://www.gialinks.jp)

代表取締役 中田智洋 (株)サラダコスモ

取締役 大西 隆 (有)セントラルローズ

取締役 桜井芳明 桜井食品(株)

取締役 渡辺好弘 チュウノー食品(株)

取締役 加藤孝義 (株)岐孝園

監査役 渡辺基成 渡辺会計事務所

## 16年1月 現地ツアーのご報告

新しい年を迎えた早々の1月9日から17日までの9日間にわたって、今回初めて訪問するアンデスコロニア(農場)を主に、すでに栽培が始まっているバラデー口農場や、パラグアイのイグアス農協を視察するツアーを22名の株主様と行ってまいりました。1月9日名古屋空港に集合して頂いた参加者の皆様は、ちょうど1年前の「あの感動をもう1度」という思いで再び参加された方、また期待に胸ふくらませて初めてアルゼンチンを訪問する方等が一同に会し、自己紹介や旅行中の諸注意を話し合い、その後ニューヨーク経由でアルゼンチンのブエノスアイレスに向け約31時間の長旅に出発しました。1月10日には真冬の日本から真夏のブエノスアイレスに到着し、現地ギアリンクスの青木グスタボさんや岐阜県人会の会長さんらの出迎えを受け、ホテルへチェックインをし、市内観光と夜はアルゼンチンタンゴを楽しみ、長旅の疲れを癒しました。翌11日は岐阜県人会の皆様との新年会に参加して、移住された当時の皆様のお話に感動し、その後バラデー

口農場に向かい先の見えないほど広大な農場で無農薬栽培されている大豆に大感動し、ギアリンクスが進めてきた事業に改めてその認識を深められた様です。



バラデー口農場の畑にて。ここでは約350haで大豆を、とうもろこしを約90ha共に有機栽培しています。

感動したバラデー口農場を後にし、いよいよアンデスコロニアに向け約900km、約10時間のバスの移動です。しかし豪華バスのためか、疲れは少なく大変楽しい旅となりました。バスの移動中にギアリンクス恒例のミニ講演会が始まり、参加されている方々のお話を聞くことにより親近感が湧き、家族的な雰囲気で行けたと大変好評でした。夜間の移動中には空には満天の星、大地にはホテルの大群も見られ、この地がいかに自然そのままの農業が行われているのかを実感致しました。12日翌朝にはアンデスコロニアを訪問しました。しかし広大な約600haの未造成地を見ると、この地がいかに自然の厳しい所であるかを身をもって感じました。現地移住者の皆様方と懇談し、その中で夢を捨てずに移住者の皆様方のお知恵とご指導を受け協力しながら、



バラデー口農場入り口の看板前で記念写真

今後このコロニアが自立できる様な農場にしようと希望と夢のある話し合いができました。



### アンデス農場入り口看板前にて

その後、この広大な土地で作られているブドウを加工しているワイン工場を見学し、夜はサンラファエロの町で宿泊しました。翌13日にはブエノスアイレスへ移動し、その後買い物等を楽しみ、夜は中津川出身のタンゴダンサー古瀬陽子さんが経営するレストランにて夕食を取り、ブエノスアイレスの最後の夜を楽しみました。14日はイグアスへ出発です。アルゼンチン・ブラジル・パラグアイの3国国境を越えて、パラグアイへ入国し、イグアス農協へ向かいました。イグアス農協では多くの役員の皆様方に出迎えていただき、現地の広大な大豆栽培農場を見学し、また昨年結んだ緊急時における食糧供給協定に基いての大豆の取引の話し合いも持ちました。その後我々と在住の皆様方の楽しい夕食会に移り、親近感を深める中にもお互いの絆を確かめることができた本当に楽しい訪問になりました。翌15日は世界最大のイグアスの滝に大感動し、そして名残り惜しいパラグアイ・アルゼンチンに別れを告げ、帰国の途に着きました。ニューヨーク経由で再び36時間の長飛行です。日本に到着すると22名全員ホッとした気持ちでしたが、あの素晴らしい感動は今だに覚めやらぬ様でした。旅行中には一部荷物のトラブルや体調を崩された方もありましたが、参加して頂いた皆様方には大変喜んでいただき、無事9日間の感動あるツアーを終えることができました。次回は4月に計画しておりますので、皆様方の参加をお待ちしております。 取締役 大西隆 記

アンデス農場訪問記 参加者 片岡 篤夫  
今回で4回目となる旅の最大の目的はアンデス農場を見る事でした。

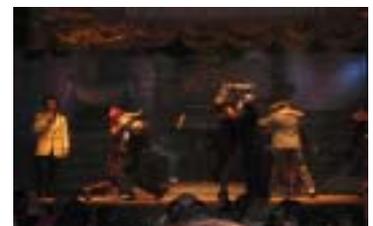
バスで800km、バラデー口の街を抜けると一面の放牧地帯、やがて草は消え広大な低小木がある砂漠地帯と変わり、それはまるでうねる海のような大地。朝日と共にそれは少しずつぶどう畑へと変わりメンドーサの町に近づいて行きます。朝食で立ち寄った小さなガソリンスタンド兼レストラン、ブエノスアイレスで見たイタリア系の顔つきがどこかフランス系の顔つきに感じたのは私だけでしょうか。地元の人話では昔この辺りを最初に開拓し始めたのはフランス人だったとか。アンデス農場はここから車で30分程の所にありました。600ha 全ては低小木で被われた砂漠地、所々地面が白くなっています。「塩」です。そこに立つと「さて」と「どうする」の二言。この処女地に対する二言は青春時代「やってみなけりゃわからん」そんな熱き情熱を思い起こさせるものでした。



### アンデス農場の一部(2003年4月撮影)

日本から一番遠い国と言っても過言ではないでしょう。広大な大地、緑多きヨーロッパ調の街並み、牛肉とワインそしてタンゴ。ダンデニズムとエロチズム、男と女の恋の掛け引き「アルゼンチンタンゴ」そう感じるのは私だけでしょうか。

今回も旅行期間に  
タンゴショーに行きました



二度目の南米 参加者 稲垣洋子

私の人生辞書に南米大陸アルゼンチンへ2度も訪れると書いてなかったが、蛍の大群生を見たくて再度出掛けて行きました。トラック、バスが猛スピードで走るその道の両側の草むらにクリスマスツリーのようなハッキリした光が何10キロも続き、私達はバラデーロからアンデス農場迄2階建て豪華バスで蛍と満天の星空を銀河鉄道が行くが如く、と表現すると判って頂けるだろうか？ 蛍が大発生しているのは農薬を使っていない恩恵との事。360度の地平線上の御来光は更に感動。出掛ける迄は中田社長の話がちょっと大げさではないかと思いましたが、この感動は1歩前へ出た自分に自画自賛。パラグアイ日系農協は初体験の舟にて三国を視野に入れて川からの国境越え(アルゼンチン、パラグアイ、ブラジル)。



三国国境のパラナ川を小船で通過しました。

パラグアイ農協の方々との交流会は手料理(助六寿司、魚・・・)に10種類の肉料理。のりは貴重品。やっぱり私達にピッタリの味と食材でした。しかしそれ以上に人々が優しく暖かい。2度も引かれて行ったのは幼き頃の人々の心暖かさであると感じ入った。初めて話す人も何故か懐かしい。みんな元気があり、生命力を感じるのです。ある人が日系2世の男性に「日本の国籍を続けているのは何故ですか？」と尋ねると、彼は「望郷の念でしょう」と、ここは日本のパラグアイ県なのです。「今度来る時はゆっくりおいでよ。」「飛行場まで迎えに行っておけるよ。」とすっかり親戚気分です。ちなみに観光ビザで3ヶ月居られるとのこと。アルゼンチンにもこの旅で滞在する受け入れ先が出来て

3度目も可能かも知れない。日本から一番遠くて近い国。同行のすべての人が満足感と笑顔を日本へお土産として、第1回目同様にお持ち帰りしました。同行した分だけ幸せを頂き、ギアリンクスに感謝です。

## 旅のスナップ ご紹介



1月11日 在アルゼンチン岐阜県人会の新年会に参加しました。この人たちのご協力を得て事業は順調に進展しています。



1月12日にはアンデス農場に早朝到着しました。夜行バスの疲れを取ろうと「野点」が開かれ大好評。



← パラグアイの夕刻風景



当社現地駐在員の青木グスタボさんご家族。  
現地生まれの岐阜県人2世です。



イグアスの滝。滝の幅が4km、落差80mは写真に撮りきれませんが迫力を感じてください。流れ落ちた水が途中から水蒸気となり雲になっていきます。

## 当社の状況報告

平成16年2月17日現在の報告です。

株主数 延べ330名によるご出資をいただき、出資金の合計は7,450万円となりました。

皆様のご協力、ご支援誠に有難うございます。身近な方でご出資いただける方がありましたら事務局までお知らせください。ご案内を送ります。

ギアリンクスのホームページアドレスは下記です。

[www.gialinks.jp](http://www.gialinks.jp) 随時更新をしていくためにも皆様の訪問、ご意見をお待ちしています。

## 私たちの活動がテレビで報道

去る2月7日(土)午後5時からテレビ東京のニュースの中で約15分ですが、ギアリンクスの活動が報道されました。この1月の旅行にはテレビ東京からスタッフ2名が参加して農場の栽培風景や現地の日系人との関わり等々を取材された部分を基にして、岐阜県が取り組んでいる食糧確保計画についても報道されました。残念ながら首都圏を中心にした番組で全国には流れませんでした。早速埼玉県在住の方が出資したいとお申し出をいただくほどの好評でした。

## 収穫風景見学ツアーのご案内

来る4月20日(火)から4月29日(木)にかけての10日間の予定でアルゼンチン農場とパラグアイ日系農協の収穫風景の見学ツアーを計画しました。現在アルゼンチンのバラデー口農場ではすべて無農薬栽培による350haの大豆と90haのとうもろこしを栽培しています。今後の天候によって収穫時期は前後しますが上記の日程で状況確認は出来る見込みです。日本では見られない、見渡す限りが地平線という広大な大地の中での収穫風景は一見の値打ちがあると思います。

前回までの9日間では強行軍ということで1日増やして、自由時間をより多く持っていただけるよう検討をしています。追って詳細をご案内いたしますが現時点でのプランをご案内します。

4月20日(火)午前 名古屋空港出発(成田経由)

22日(水)朝 フェノスアイレス着

市内観光、農場訪問(バラデー口とアンデス)、パラグアイ農協、イグアスの滝(ブラジル側)、仕込み最盛期のワイン工場、タンゴショー等々の見学、観光を予定

4月27日(火)夜 フェノスアイレス発

28日(水)ニューヨークを経由

29日(木)夜 名古屋空港着(成田経由)

費用 お一人さま 320,000円 (エコノミー席) 部屋のシングルユース、旅行保険、ビジネスクラスの利用等は別途となります。